

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

Dark Triad と5因子性格モデルとの関連

著者	喜入 暁
出版者	法政大学大学院
雑誌名	大学院紀要 = Bulletin of graduate studies
巻	76
ページ	49-54
発行年	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/12135

Dark Triad と 5 因子性格モデルとの関連

人文科学研究科 心理学専攻

博士後期課程 2 年 喜 入 暁

要約

社会的に望ましくないと言われる 3 つのパーソナリティサイコパシー傾向、マキャベリアニズム傾向、ナルシズム傾向は、冷淡な感情と対人操作性が共通する。そのため、これらの集合体として Dark Triad (D3) 傾向というパーソナリティ概念が提唱され、様々な研究が行われている。Dark Triad 傾向と既存のパーソナリティモデルとの関連では、5 因子モデル (Five Factor Model: FFM) が多く研究されており、Dark Triad 傾向と協調性の低さが一貫する知見である。本邦でも D3 と FFM との関連は検討されており、D3 と協調性との負の関連が示されている。本研究では、この関連性が再現されるかどうかの追試を行った。また、D3 と自尊感情との関連も検討した。構造方程式モデリングの結果、Dark Triad 傾向は協調性および誠実性との負の関連が示され、自尊感情を統制した場合にも関連は保たれた。これらの結果は、国外における研究知見と一致する。

キーワード：ダークトライアド傾向 (Dark Triad: D3)、サイコパシー傾向、マキャベリアニズム傾向、ナルシズム傾向 (自己愛傾向)、5 因子性格モデル (Five Factor Model: FFM)、自尊感情

1. 問題と目的

1.1. はじめに

社会的に望ましくないパーソナリティとして、3 つ挙げられる。サイコパシー傾向、ナルシシズム傾向、マキャベリアニズム傾向である。この 3 パーソナリティには、冷淡な感情や対人操作性といった側面が共通している (Jones & Paulhus, 2014; Paulhus, 2014)。そのため、これらの集合体として Dark Triad (D3) という概念が提唱されている (Paulhus & Williams, 2002)。D3 に関する研究は 10 年あまりで多くなされており (Jonason et al., 2012)、特に、既存のパーソナリティ理論との関連では概ね一貫した知見が得られている。具体的には、5 因子性格モデル (Five Factor Model: FFM) との関連において、協調性の低さが関連することが指摘されている (e.g., Furnham et al., 2014; Jakobwitz & Egan, 2006; O'Boyle et al., 2014; Paulhus & Williams, 2002)。

また、FFM に誠実・謙虚 (Honesty-Humility) の側面を加えた HEXACO モデル (Ashton et al., 2004) との関連では、誠実・謙虚が D3 と強い負の関連を

示すことが明らかとなっている (Lee & Ashton, 2005)。

さらに、対人関係に焦点を当てたパーソナリティ理論として、対人円環モデル (Gurtman, 2009) との関連も検討されている。対人円環モデルは、自身のパフォーマンスを重視する Agency の軸と、円滑な対人関係を重視する Communion の軸で表現される 2 次元上に、あるパーソナリティや個人がどのように位置づけられるのかを示すことによってそのパーソナリティを理解しようとする枠組みである。D3 との関連では、Agency との正の関連と Communion との負の関連が特徴的である (Rauthmann & Kolar, 2013)。ただし、ナルシシズム傾向における対人円環との特有な関連として、Communion との正の関連も示されている。

パーソナリティだけではなく、D3 の行動傾向や志向に関しても研究がなされている。特徴的な点として、他者を操作的に扱う、自己中心的であることなどが挙げられる (e.g., Giammarco & Vernon, 2015; Nagler et al., 2014; O'Boyle et al., 2012;)。

1.2. 本邦における Dark Triad 研究の動向

本邦において、D3 の研究は多くはなされていない。代表的な研究では、田村他 (2015) による、D3 を測定する尺度 (Dark Triad Dirty Dozen: DTDD; Jonason & Williams, 2010) の日本語版 (DTDD-J) の開発に関するものである。田村他 (2015) でも、尺度の妥当性を検証するために、D3 の各側面を測定する尺度に加えて、FFM との関連を示している。分析の結果、協調性との負の関連が示されており、特にサイコパシー傾向において顕著であった。これらの結果は先行研究を支持するものである。

本邦における対人円環モデルと D3 との関連も検討されており、概ね Rauthmann and Kolar (2013) を支持する結果を示している (下司他, 2015)。

1.3. 本研究

本邦における D3 の研究は多くはない。そのため、本邦においても D3 と既存のパーソナリティ理論との関連性を検討すべきである。本研究では、田村他 (2015) や下司他 (2015) で示されたような、FFM との関連性、特に、低い協調性との関連に再現性があるかどうかを検討するため、D3 と FFM との関連の追試を行う。また、パーソナリティやさまざまな傾向と関連すると考えられる自尊感情との関連性についても検討を行う。

先行研究に従えば、D3 は協調性との負の関連が予測される。

2. 方法

2.1. 参加者

法政大学の学生 70 名 (男性 37 名, 女性 33 名, 平均 19.1 歳, $SD = 1.02$) が参加した。

2.2. 測定

Dark Triad 田村他 (2015) による日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) を使用した。この尺度は、Dark Triad 傾向の各下位側面であるサイコパシー傾向、マキャベリアニズム傾向、ナルシズム傾向を 4 項目ずつで測定し、全 12 項目の総合計を Dark Triad 得点として扱うものである。本研究では、平均得点を用いた。各尺度の信頼性係数は十分ではなかったが (Table 1 参照)、項目数が少ないこと、十分な外的妥当性が示されていることから、田村他 (2015) および Jonason and Webster (2010) の因子構

造に従った。また、尺度得点として平均得点を用いた。

Five Factor Model 小塩他 (2012) による、5 因子性格検査短縮版を使用した。この尺度は、パーソナリティの 5 因子である開放性、誠実性、外向性、協調性、神経症傾向を各 2 項目で測定する。本研究での信頼性係数は低かったが (Table 1 参照)、項目数が少ないこと、十分な外的妥当性が示されていることから、小塩他 (2012) の因子構造に従った。また、尺度得点として平均得点を用いた。

自尊感情 箕浦他 (2013) の自尊感情尺度短縮版を使用した。この尺度は、自尊感情を 2 項目で測定するものである。信頼性係数は十分な値を示した ($\alpha = .80$; Table 1 参照)。尺度得点として、平均得点を用いた。

2.3. 手続き

参加者は、DTDD-J, 5 因子性格検査短縮版, 自尊感情尺度短縮版すべてに 7 件方で回答し、その後、デブリーフィングを受けた。

3. 結果

3.1. 相関分析

Table 1 に測定尺度の平均値、標準偏差、 α 係数、尺度得点同士の相関係数を示した。D3 の各側面同士は正の相関を示したが、ナルシズム傾向とサイコパシー傾向との相関は負の値を示し、有意ではなかった。FFM と D3 のゼロ次相関は、外向性とのみ有意な正の関連が示された ($r = .25$)。また、D3 の各側面においては、サイコパシー傾向が協調性との有意な負の関連が示し ($r = -.54$)、また、は誠実性とも有意な負の関連を示した ($r = -.28$)。ナルシズム傾向は開放性 ($r = .34$)、誠実性 ($r = .31$)、外向性 ($r = .41$) との有意な正の関連が示された。マキャベリアニズム傾向と FFM との有意な相関は示されなかった。

D3 と自尊感情との関連について、有意な正の関連が示された ($r = .26$)。また、この関連は特にナルシズム傾向に特徴づけられる ($r = .44$)。なお、D3 と性別との有意な関連は示されなかった。

自尊感情、年齢、性別を統制した偏相関係数では、D3 と協調性との有意な負の関連が示された ($r_p = -.29$)。D3 の各側面では、サイコパシー傾向と協調性との有意な負の関連 ($r_p = -.52$) に加え、マキャ

Table 1. 測定した尺度得点との相関係数

	平均	SD	α	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. D3	3.91	0.75	.74	-									
2. Mach	3.70	1.12	.75	.856** (.854**)	-								
3. Narc	4.55	1.19	.79	.718** (.684**)	.421** (.363**)	-							
4. Psych	3.48	0.84	.31	.537** (.628**)	.381** (.456**)	-.042 (.042)	-						
5. 開放性	4.03	1.22	.60	.166 (.037)	.034 (-.079)	.338** (.158)	-.077 (.001)	-					
6. 誠実性	3.06	1.22	.55	.134 (.048)	.151 (.063)	.312** (.186)	-.284* (-.195)	.264* (.138)	-				
7. 外向性	4.15	1.42	.67	.250* (.152)	.190 (.108)	.412** (.281*)	-.166 (-.102)	.162 (.001)	.191 (-.029)	-			
8. 協調性	4.99	1.14	.43	-.168 (-.288*)	-.134 (-.234†)	.189 (.054)	-.543** (-.519**)	.162 (.003)	.321** (.227†)	.007 (-.119)	-		
9. 神経症傾向	4.34	1.37	.58	.011 (.095)	-.006 (.047)	-.037 (.093)	.091 (.069)	-.045 (.082)	-.266* (-.250*)	-.083 (-.011)	-.285* (-.225†)	-	
10. 自尊心	4.02	1.23	.80	.257* (.208†)	.229† (.206†)	.437** (.388**)	-.231† (-.250†)	.420** (.388**)	.439** (.447**)	.373** (.333**)	.355** (.371**)	-.196 (-.168)	-
11. 年齢	19.1	1.02		.229†	-.120	-.302*	-.028	-.195	.075	.246*	-.018	-.115	.258*
12. 性別				.125	-.035	-.158	.066	.199†	-.133	-.001	.146	-.204†	.087

Note. D3 = Dark Triad 傾向, Mach = マキャベリアニズム傾向, Narc = ナルシシズム傾向, Psych = サイコパシー傾向を示す。

Note. () 内は自尊心, 年齢, 性別 (自尊心の行は年齢, 性別) を統制した偏相関係数である。

Note. † $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$.

ベリアニズム傾向との負の関連が有意傾向であった ($r_p = -.23$)。また、ナルシシズム傾向と外向性に有意な正の関連が示された ($r_p = .28$)。

3.2. 重回帰分析

D3 の各側面に特有な関連を検討するため、D3 の各側面を説明変数、FFM の各 5 側面および自尊感情を目的変数とする重回帰分析を行った。結果を Table 2 に示した。ナルシシズム傾向は開放性 ($b^* = .39$)、外向性 ($b^* = .36$) と有意な正の関連を示し、サイコパシー傾向は協調性 ($b^* = .54$)、誠実性 ($b^* = .35$) と有意な負の関連を示した。マキャベリアニズム傾向と FFM との関連は示されなかった。また、ナルシシズム傾向は自尊感情と有意な正の関連 ($b^* = .34$) を示したが、サイコパシー傾向は有意な負の関連 ($b^* = -.29$) を示した。

D3 に特有な FFM との関連では、年齢、性別、自尊感情を統制した場合、サイコパシー傾向と協調性の負の関連 ($b^* = -.48$) のみ有意な関連が示された。また、D3 と自尊感情との関連では、年齢、性別を統制しても有意な関連が保たれた (ナルシシズム傾向: $b^* = .29$, サイコパシー傾向: $b^* = -.30$)。

3.3. 構造方程式モデリング

D3 尺度得点は、DTDD-J の全項目を平均化した得点であるため、各側面に特有な要素も含まれている。そのため、構造方程式モデリングによって、D3 得点を因子として抽出し、D3 因子による FFM の各側面との関連を検討した。また、自尊感情との関連を統制した。分析の結果を Figure 1 に示した。分析の結果、適合度は悪かった ($\chi^2 (24) = 71.77, p < .001$; CFI=.603; RMSEA=.169; SRMR=.160)。しかし、関連していない変数同士のパスが引かれていることから、当然であると考えられる。

D3 因子は協調性と強い負の関連を示し、さらに、誠実性とも有意な負の関連が示された。また、この関連は、自尊感情と共通する要素を取り除いても健在であることが示された。これらのことから、D3 は FFM の枠組みでは協調性と誠実性の低さに特徴づけられることが示された。

4. 考察

4.1. 知見のまとめ

本研究は D3 について、既存のパーソナリティモ

Table 2. D3 の各側面を説明変数、FFM の各側面を目的変数とした重回帰分析の標準偏回帰係数

	開放性		誠実性		外向性		協調性		神経症傾向		自尊感情	
Mach	-.124	(-.182)	.192	(.115)	.115	(.078)	.000	(-.034)	-.040	(-.024)	.196	(.204)
Narc	.389**	(.231 [†])	.217 [†]	(.152)	.356**	(.269 [†])	.166	(.093)	-.015	(.109)	.342**	(.289*)
Psych	-.014	(.076)	-.348**	(-.237 [†])	-.195	(-.142)	-.536***	(-.481***)	.105	(.075)	-.292*	(-.303*)

Note. Mach = マキャベリアニズム傾向, Narc = ナルシズム傾向, Psych = サイコパシー傾向を示す。

Note. ()内は自尊感情, 年齢, 性別(自尊感情においては年齢, 性別)を統制した場合の標準偏回帰係数である。

Note. [†] $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

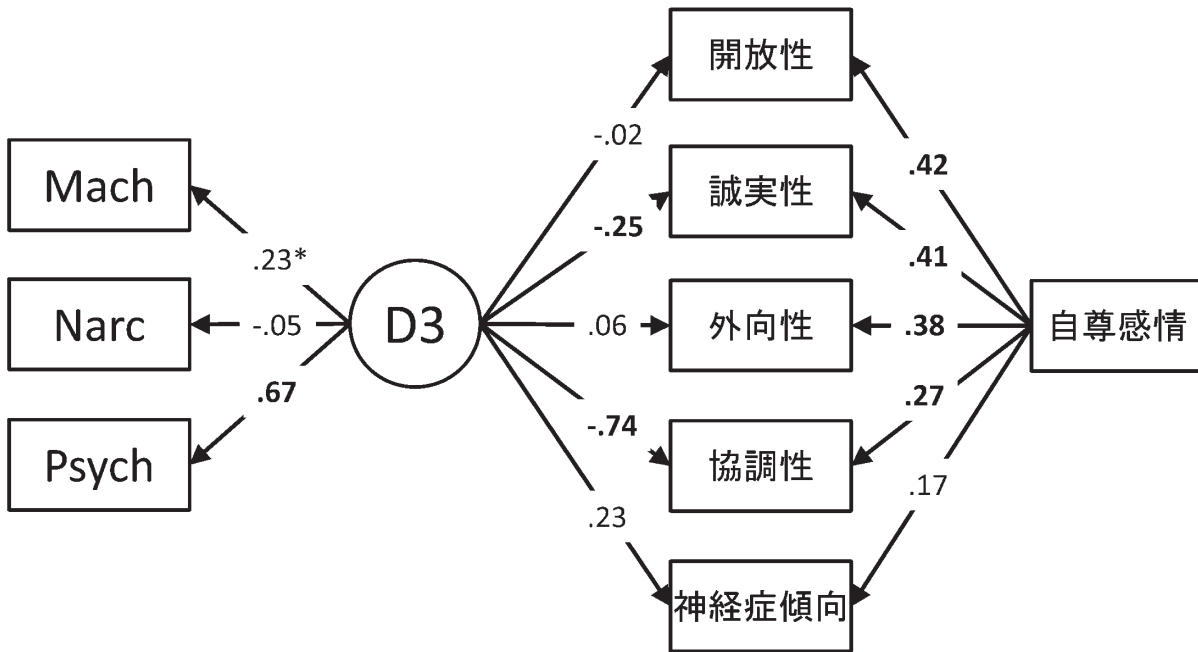


Figure 1. 構造方程式モデリングの結果と標準化係数。太字は 5%水準で有意なパスを示す。“*”は係数を 1 に固定した。D3 は Dark Triad 傾向, Mach はマキャベリアニズム傾向, Narc はナルシズム傾向, Psych はサイコパシー傾向を示す。

デルとして多くの研究で言及される FFM との関連を追試した。研究の結果, D3 は協調性との負の関連が一貫して示され, 特にサイコパシー傾向において顕著であった。これらの結果は, これまでの先行研究を支持するものであった。また, 年齢, 性別, 自尊感情を統制した場合であっても協調性との負の関連は維持された。さらに, 構造方程式モデリングによる分析の結果, D3 は協調性との負の関連に加え, 誠実性との負の関連も示されている。この結果も, D3 の自己中心的な側面が反映されたものであると推察される。

一方, D3 の各側面では異なる関連が示されている。

まず, サイコパシー傾向と FFM においては, おおむね D3 と FFM と同様の関連が示された。D3 は冷淡な感情と対人操作性が核となることが言及されているが (Jones & Figueredo, 2013), このような特

徴はサイコパシー傾向に顕著であるため, D3 得点とサイコパシー傾向得点で同様の関連を示したことが考えられる。

次に, マキャベリアニズム傾向では, FFM のどの側面とも有意な関連は示されなかった。この結果は, マキャベリアニズム傾向は FFM 以外の関連するパーソナリティがある可能性を示唆する (O' Boyle et al., 2014)。

そして, ナルシズム傾向は開放性および外向性と正の関連を示した。これは, ナルシズム傾向の自己顕示や他者と関係を築こうとする傾向が影響しているものと考えられ, 先行研究と一致する。

これらの結果から, 本邦においても D3 が協調性の低さと関連することが示された。また, 協調性の低さが特にサイコパシー傾向に特徴付けられることは田村他 (2015) や Jonason and Webster (2010) の結果を再現するものである。

自尊感情の関連では、ナルシズム傾向が有意な正の関連を示しており、尊大感や自己顕示性を特徴とするナルシズム傾向の特徴と一致するものである (Raskin & Hall, 1979)。一方、サイコパシー傾向との負の関連が示された。これはサイコパシー傾向の特に2次性サイコパシー側面が自尊感情と負の関連を示すことに由来すると考えられる (Miller et al., 2010)。

先行研究と異なる知見として、性差が示されなかったことが挙げられる。多くの先行研究ではD3および各側面において男性のほうが女性よりも高い得点を示しており (Jonason & Webster, 2010; Jones & Paulhus, 2014), 本研究での結果と矛盾する。ただし、性差が示されないことも報告されている (Carter et al., 2014)。そのため、D3と性差との関連を規定する要因を研究する必要がある。

構造方程式モデリングの結果から、D3は協調性の低さと誠実性の低さに特徴付けられると考えられる。この結果も、過去の知見と一致する (Furnham et al., 2014)。また、D3を因子として抽出したことから、よりD3の核となる側面との関連が示されたことが考えられる。

4.2. リミテーション

本研究での問題点として2つ挙げられる。まず、尺度の内的整合性が低いことである。FFMの各側面の α 係数は.70に満たず、サイコパシー傾向の α 係数は.31ときわめて低い。そのため、測定したい側面を適切に測定できていない可能性がある。ただし、田村他 (2015) や Jonason and Webster (2010) においてもサイコパシー傾向はD3の他の側面に比べて信頼性が低いことから、本研究特有の問題点ではなく、今後、尺度そのものに関して吟味する必要がある。

2つ目は、D3因子から各側面への因子負荷量が低いことが挙げられる。主にサイコパシー傾向のみに大きな負荷量が示され、マキャベリアニズム傾向への負荷量は低い。さらに、ナルシズム傾向への負荷量は負の値を示している。D3の結果と、サイコパシー傾向特有の結果が類似したことは、このような点が影響している可能性がある。ただし、D3の核となる冷淡な感情と対人操作性は、サイコパシー傾向に特徴的な側面でもある。そのため、D3を因子として抽出した際に、サイコパシー傾向への負荷量が大きかったことが考えられる。

4.3. 終わりに

現在、D3に関してHEXACOモデルをはじめとするさまざまなパーソナリティとの関連や、行動傾向との関連が示されている。今後、関連性の研究から行動予測への研究なども行っていくべきであろう。

謝辞

本稿を書くにあたり、終始温かいご指導を頂いた越智啓太先生に心より感謝致します。

引用文献

- Ashton, M. C., Lee, K., & Goldberg, L. R. (2004). A hierarchical analysis of 1,710 English personality-descriptive adjectives. *Journal of Personality and Social Psychology*, 87, 707-721. doi: 10.1037/0022-3514.87.5.707
- Carter, G. L., Campbell, A. C., & Muncer, S. (2014). The Dark Triad: Beyond a 'male' mating strategy. *Personality and Individual Differences*, 56, 159-164. doi:10.1016/j.paid.2013.09.001
- Furnham, A., Richards, S., Rangel, L., & Jones, D. N. (2014). Measuring malevolence: Quantitative issues surrounding the Dark Triad of personality. *Personality and Individual Differences*, 67, 114-121. doi:10.1016/j.paid.2014.02.001
- Giammarco, E. A., & Vernon, P. A. (2015). Interpersonal Guilt and the Dark Triad. *Personality and Individual Differences*, 81, 96-101. doi:10.1016/j.paid.2014.10.046
- Gurtman, M. B. (2009). Exploring personality with the interpersonal circumplex. *Social and Personality Psychology Compass*, 3, 601-619. doi: 10.1111/j.1751-9004.2009.00172.x
- Jakobowitz, S., & Egan, V. (2006). The dark triad and normal personality traits. *Personality and Individual Differences*, 40, 331-339. doi:10.1016/j.paid.2005.07.006
- Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2010). The dirty dozen: a concise measure of the dark triad. *Psychological Assessment*, 22, 420-432. doi: 10.1037/a0019265
- Jonason, P. K., Webster, G. D., Schmitt, D. P., Li, N. P., & Crysel, L. (2012). The antihero in popular culture: Life history theory and the dark triad personality traits. *Review of General Psychology*, 16, 192-199. doi: 10.1037/a0027914
- Jones, D. N., & Figueredo, A. J. (2013). The core of

- darkness: Uncovering the heart of the Dark Triad. *European Journal of Personality*, 27, 521-531. doi: 10.1002/per.1893
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the Short Dark Triad (SD3): A brief measure of dark personality traits. *Assessment*, 21, 28-41. doi: 10.1177/1073191113514105
- Miller, J. D., Dir, A., Gentile, B., Wilson, L., Pryor, L. R., & Campbell, W. K. (2010). Searching for a vulnerable dark triad: Comparing factor 2 psychopathy, vulnerable narcissism, and borderline personality disorder. *Journal of Personality*, 78, 1529-1564. doi: 10.1111/j.1467-6494.2010.00660.x
- 箕浦有希久・成田健一 (2013). 2 項目自尊感情尺度の開発および信頼性・妥当性の検討 感情心理学研究, 21, 37-45. doi: 10.4092/jsre.21.37
- Nagler, U. K., Reiter, K. J., Furtner, M. R., & Rauthmann, J. F. (2014). Is there a “dark intelligence”? Emotional intelligence is used by dark personalities to emotionally manipulate others. *Personality and Individual Differences*, 65, 47-52. doi:10.1016/j.paid.2014.01.025
- O’Boyle, E. H., Forsyth, D. R., Banks, G. C., Story, P. A., & White, C. D. (2014). A meta-analytic test of redundancy and relative importance of the dark triad and five-factor model of personality. *Journal of Personality*. doi: 10.1111/jopy.12126
- O’Boyle Jr, E. H., Forsyth, D. R., Banks, G. C., & McDaniel, M. A. (2012). A meta-analysis of the dark triad and work behavior: A social exchange perspective. *Journal of Applied Psychology*, 97, 557-579. doi: 10.1037/a0025679
- 小塩真司・阿部晋吾・Cutrone, P. (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21, 40-52. doi: 10.2132/personality.21.40
- Paulhus, D. L. (2014). Toward a taxonomy of dark personalities. *Current Directions in Psychological Science*, 23, 421-426. doi: 10.1177/0963721414547737
- Paulhus, D. L. & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556-563. doi:10.1016/S0092-6566(02)00505-6
- Raskin, R. N., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports*, 45, 590-590. doi: 10.2466/pr0.1979.45.2.590
- Rauthmann, J. F., & Kolar, G. P. (2013). Positioning the Dark Triad in the interpersonal circumplex: The friendly-dominant narcissist, hostile-submissive Machiavellian, and hostile-dominant psychopath? *Personality and Individual Differences*, 54, 622-627. doi:10.1016/j.paid.2012.11.021
- 下司忠大・橋本泰央・小塩真司 (2015). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の更なる妥当性検証——対人円環, Big Five との関連を通して—— 日本心理学会第 79 回大会発表論文集, 53.
- 田村紋女・小塩真司・田中圭介・増井啓太・ジョナソンピーターカール (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 24, 26-37. doi: 10.2132/personality.24.26